

過去最大規模の一般会計予算を編成！ 256億1,000万円(前年度比5億6,000万円・2.2%増) 令和2年度龍ヶ崎市予算(案)を発表しました

龍ヶ崎市では、本日（2/10）予算発表記者会見を開催し、令和2年度龍ヶ崎市予算（案）を公表しましたので、お知らせいたします。

【令和2年度予算のポイント】

○過去最大規模の一般会計予算を編成

一般会計予算：256億1,000万円(前年度比 5億6,000万円・2.2%増)

※一般会計・特別会計予算総額：402億9,250万円（前年度比△20億4,910万円・12.2%減）

【令和2年度の主な事業】

○国指定重要文化財「絹本著色十六羅漢像」掛軸複製(536万円)

- ・平成29年度から事業をスタートし、新年度4幅の複製実施で全16幅の複製が完了
- ・令和3年5月に16幅を一堂に公開する企画展の開催を予定

○2020年オリンピック・パラリンピック東京大会関連

- ・オリンピック東京大会に出場する海外チーム事前キャンプ及びスポーツ交流事業(1,716万円)
- ・本市ゆかりの選手出場競技のパブリックビューイング開催(300万円)

○拡張した工業団地を分譲します

- ・分譲収入でこれまでに借り入れた市債を一括で返済します。

○学童保育ルーム運営業務委託(1億8,300万円)

- ・民間事業者の持つ人材募集や労務管理のノウハウを生かし、子育てと仕事の両立に資する、学童保育の安定的な運営を図るため、民間委託します。

■発表日時 令和2年2月10日(月)午前11時 発表
(上記日時に開催した予算発表記者会見において配布した資料をお送りしています)

■添付資料 ・記者発表資料
・市長記者発表要旨
・令和2年度龍ヶ崎市予算の概要

担当課

龍ヶ崎市 総務部 財政課 財政グループ
担当者：富塚（とみつか）・木村（きむら）
連絡先：0297-60-1517（直通）

令和2年度は、持続可能な「ふるさと龍ヶ崎」の まちづくりをすすめる年です。

令和2年度は、本市のまちづくりの基本方向を示す最上位計画「第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」の4年目の年であり、「市民活動日本一」「子育て環境日本一」「防災・減災日本一」「スポーツ健幸日本一」の4つの重点目標に沿った様々な取り組みを、次期計画の策定を見据えながら推進していく年です。

令和2年度予算のポイント

一般会計予算は256億1,000万円、前年度比5億6,000万円（2.2%）の増で、過去最大の予算規模となりました。
特別会計では、工業団地分譲収入を計上しています。

会計別予算の状況		令和2年度	令和元年度	比較	増減率
一般会計		256億1,000万円	250億5,000万円	5億6,000万円	2.2%
特別会計	国民健康保険事業	72億4,400万円	75億700万円	△2億6,300万円	△3.5%
	公共下水道事業	-	22億5,900万円	△22億5,900万円	皆減
	農業集落排水事業	-	6,700万円	△6,700万円	皆減
	介護保険事業	51億9,600万円	48億8,700万円	3億900万円	6.3%
	障がい児支援サービス事業	5,230万円	3,600万円	1,630万円	45.3%
	後期高齢者医療事業	15億2,700万円	14億5,400万円	7,300万円	5.0%
	介護サービス事業	1,140万円	960万円	180万円	18.8%
	工業団地拡張事業	6億5,180万円	5億1,200万円	1億3,980万円	27.3%
	特別会計合計	146億8,250万円	167億3,160万円	△20億4,910万円	△12.2%
総計		402億9,250万円	417億8,160万円	△14億8,910万円	△3.6%
下水道事業会計		38億2,974万円	-	38億2,974万円	皆増

令和2年度の龍ヶ崎市一般会計予算は、震災復興特別交付税を活用した龍ヶ崎地方塵芥処理組合のリサイクル施設の長寿命化や龍ヶ崎地方衛生組合の污泥処理施設の更新などに伴う、両組合への負担金が5億円超の増となったほか、介護給付の伸びや、幼児教育・保育無償化に伴う給付費の増、会計年度任用職員制度の開始による人件費の増などにより規模が拡大し、5億6,000万円増の256億1,000万円と、過去最大の予算規模となりました。

一般財源については、消費税率改正を受け、地方消費税交付金が2億円超の増額となりました。また、自動車税の再編により、環境性能割交付金の平年化や自動車取得税交付金の廃止、自動車税・軽自動車税減収補てん特例交付金を新設したほか、森林環境譲与税、法人事業税交付金の新設など、各種交付金の改正を反映させています。地方交付税は、臨時財政対策債を含む実質的な普通交付税は前年度並みですが、震災復興特別交付税の大幅増により、一般財源総額は8億円の増となりました。

財政調整基金と減債基金の繰り入れは、歳入確保や事業見直しなどの効果により、前年度の8億円から、4億2,000万円にまで抑制することができました。

特別会計では、工業団地拡張事業特別会計で、造成した工場用地の分譲収入を計上しました。歳出では、本事業のために借り入れた市債を一括で返済し、更に、2億円余りを一般会計へ繰り出しています。公共下水道事業と農業集落排水事業は、公営企業会計への移行に伴い、特別会計を廃止しています。

令和2年度主要事業

★新規 ☆拡充 ☆継続 ◎みらい育成基金充当事業

教育環境の向上と「子育て環境日本一」	
★ 新学校給食センター測量・基本設計(4か年継続事業 総額27億6,342万円)	2,279万円
★ 学習用端末の1人1台配備(小5・6、中1)、校内LAN拡張(R1繰越事業)	4億6,117万円
★ 主体的・意欲的な学習活動や読書活動の充実(学校図書館司書業務等の増)	5,078万円
★ 子ども家庭総合支援センターの設置(虐待などの相談・支援の充実)	954万円
★ 駅前こどもステーションの運営(保育所等への送迎と子育て支援センター)	4,207万円
★ 1歳児おたふくかぜ任意予防接種助成の拡大	318万円 ◎
★ 骨髄移植後等再予防接種費助成	19万円
★ 国指定重要文化財「絹本著色十六羅漢像」掛軸複製(4幅)※全16幅の複製完了	536万円 ◎
にぎわいの創出と「市民活動日本一」	
★ 「龍ヶ崎市駅」誕生記念プレミアム付き商品券発行	2,500万円
★ インフルエンサーを活用した市PR動画の制作・配信	300万円
★ 魅力体験ツアー・イベントの開催	300万円
★ 住み替え支援補助金の拡充(転入者10万円上乘せ)	4,500万円
★ 2020年オリンピック東京大会パブリックビューイング	300万円
★ 市道第1-380号線(佐貫3号線)整備事業(用地購入等)(R1繰越事業分1億円)	1億5,600万円
★ 新長戸コミュニティセンター建設事業(旧校舎解体実施設計及び新コミセン基本設計)	810万円
★ 市道第3-309号線整備事業(土地評価・境界確定等)	990万円
★ 牛久沼の埋設物調査	166万円
★ 工業団地拡張事業(工場用地分譲)	6億5,180万円
安全安心なまちづくりと「防災・減災日本一」	
★ 防災情報伝達設備整備事業(3か年継続事業 総額4億2,680万円のうち2年目)	3億3,080万円
★ 防災貯留型トイレの整備(避難所となる小中学校7か所) ※最終年度	3,500万円
★ 交通安全施設整備事業(計画的な区画線補修分拡充)	3,000万円
★ 交差点への防犯カメラ設置(2か所)	286万円
★ 防犯カメラ等設置事業補助金(10基程度)	150万円
健康づくりの推進と「スポーツ健幸日本一」	
★ 2020年オリンピック東京大会事前キャンプ及びスポーツ交流事業	1,716万円
★ 北海道日本ハムファイターズイースタンリーグ公式戦及び野球教室開催	170万円
★ (仮称)龍ヶ崎マラソン大会開催費(令和3年開催予定)	1,668万円
★ まいん「健幸」サポートセンターの運営(令和2年2月7日オープン)	1,113万円
★ 健幸マイレージ事業の推進(ポイント交換等)	453万円 ◎
★ 特定健康診査の拡充(項目の追加)	4,326万円
★ 健診データ分析等(受診勧奨・糖尿病重症化予防等)	760万円
公共施設・インフラの新設・拡充等	
★ 龍ヶ崎市駅東駐輪場塗装工事	3,402万円
★ 元気サロン松葉館・松葉小学校保育ルーム空調機更新工事	1,508万円
★ ひまわり園外壁塗装改修工事	1,420万円
★ 農業公園農業ゾーン空調機更新工事	1,404万円
★ 旧北文間小学校体育館改修工事	2,630万円
アウトソーシング・事務改善等	
★ 学童保育ルーム運営業務委託	1億8,300万円
★ 市営住宅管理運営業務委託	984万円
★ RPA運用支援の試行(定型業務の自動処理化)	164万円

市長記者発表要旨

令和2年度の予算規模ですが、前年度と比較して、一般会計の予算額は、5億6,000万円、2.2%増の256億1,000万円で、昨年度を更新し、過去最大の予算規模となりました。

特別会計合計額は、20億4,910万円、12.2%減の146億8,250万円と、大幅減となっていますが、これは、公共下水道事業と農業集落排水事業の2つの特別会計が、公営企業会計への移行により、廃止されたことによるものです。対して、地方公営企業法の財務規定を適用した、下水道事業会計を新設しています。

工業団地拡張事業特別会計は、造成した工業用地を分譲します。この分譲収入で、これまでに借り入れた市債を一括で返済し、残金を一般会計に繰り出します。

精算の終了により、令和2年度をもって特別会計は廃止を予定しています。

令和2年度は、本市のまちづくりの基本方向を示す最上位計画「第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」の4年目の年であり、「市民活動日本一」「子育て環境日本一」「防災・減災日本一」「スポーツ健幸日本一」の4つの重点目標に沿った様々な取り組みを、次期計画の策定を見据えながら推進していく年と位置付けました。

少子高齢化と人口減少が進行するなか、本年3月14日のJR常磐線「龍ヶ崎市駅」の誕生を、本市をアピールする絶好の機会ととらえ、また、7月に開催される2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を市民の皆さんと盛り上げながら、にぎわいの創出による交流人口の増加と定住促進に力を注ぎ、限られた財源を有効に配分するための予算編成に留意しました。

続いて、令和2年度の予算の特徴です。

一部、国の補正予算を活用し、前倒しで令和元年度の補正予算で措置した事業と一体となっています。

一般会計の予算が過去最大となったのは、震災復興特別交付税を活用した、龍ヶ崎地方塵芥処理組合のリサイクル施設の長寿命化や、龍ヶ崎地方衛生組合の汚泥処理施設の更新などに伴う、両組合への負担金が5億円を超える増となったほか、介護給付の伸びや、幼児教育・保育無償化に伴う給付費の増、会計年度任用職員制度の開始による人件費の増などによるものです。

市税や交付金などの一般財源については、市税収入が100億円の大台を確保する見込みに加え、消費税率の改正により、地方消費税交付金が2億円超の増となりました。

地方交付税については、臨時財政対策債を含む実質的な普通交付税が前年度並みとなる一方、震災復興特別交付税が大幅増となっており、一般財源総額は、約8億円の増となっています。

収支ギャップを補てんするための、財政調整基金と減債基金、いわゆる一般財源基金の繰り入れは、一般行政経費の枠配分の実施や、歳入確保、事業見直しの効果などにより、前年度の8億円から、4億2,000万円にまで抑制した、堅実な予算編成とすることができました。

次に、令和2年度当初予算に計上した主な事業について、戦略プランの全体像と4つの重点目標に関連付けて、「教育環境の向上と子育て環境日本一」、「にぎわいの創出と市民活動日本一」、「安全安心なまちづくりと防災・減災日本一」、「健康づくりの推進とスポーツ健幸日本一」の取組に分けてご説明します。

まず、「教育環境の向上と子育て環境日本一」です。

新学校給食センターは、令和5年9月の開業に向け、デザインビルド方式による建設費を、令和5年度までの4か年で総額27億6,000万円の継続費を設定するうえで、令和2年度は、測量や基本設計などの予算を計上しています。

ICT教育の推進については、国が提唱したギガスクール構想に基づき、令和5年度までに、小中学校の全児童生徒へ、1人1台の学習用端末の配備を目指します。国の補正予算を活用した、令和元年度の繰越事業として、全小中学校での校内LAN拡張と、小学5・6年生及び中学1年生、全員への端末配備を実施します。

なお、ほかの学年への配備については、国の動向を踏まえ、順次適切に対応していきます。

学校図書館司書業務等については、会計年度任用職員制度のスタートに合わせて、配置日数・時間を拡充し、主体的・意欲的な学習活動や読書活動の充実と、校務処理の迅速化を図ります。

子育て支援に関しては、児童等に対する必要な支援を行うための拠点であり、令和4年度までに設置することとされている、子ども家庭総合支援センターを、期限から2年前倒しして設置し、近年増加傾向にある、虐待などの相談・支援の充実を図ります。また、「駅前こどもステーション」の運営など、これまで実施してきた取組も、継続していきます。

おたふくかぜの予防接種助成については、1歳児への助成額をこれまでの3,200円から7,200円に引き上げます。これにより、市内の医療機関で受けた場合は、実質的に無料となります。また、新たに、20歳未満の骨髄移植を受けた方などが再予防接種を受ける際の助成を開始します。

国指定の重要文化財である、「絹本著色十六羅漢像」の掛軸については、令和2年度に複製する4幅で、全16幅の複製が完了します。

なお、これを記念して、令和3年5月には、歴史民俗資料館において、16幅を一堂に公開する企画展の開催を予定しています。

「にぎわいの創出と市民活動日本一」では、本年3月14日のJR常磐線「龍ヶ崎市駅」の誕生を記念して、プレミアム付き商品券を発行します。

また、これを好機として、インフルエンサーを活用した市PR動画の制作・配信や、魅力体験ツアー・イベントの開催などにより、本市の認知度向上、イメージアップにも力を入れて取り組み、さらに、龍ヶ崎市に転入してくださる方には、住み替え支援補助金を10万円アップします。

2020年オリンピック東京大会のスポーツライミングの開催時には、市を挙げて本市出身である野口啓代さんを応援するため、パブリックビューイング開催のための予算を計上しました。

佐貫駅へのアクセスを向上させる、市道第1-380号線（佐貫3号線）の整備については、国の補正予算を活用した、令和元年度の繰越事業と合わせて、用地購入などの予算を計上しています。

旧長戸小学校の跡地を活用した、新長戸コミュニティセンター建設事業にも着手します。令和2年度は、旧長戸小学校の校舎解体にかかる実施設計と、新コミュニティセンターの基本設計を予算化しました。接続道路である、市道3-309号線についても、拡幅に向けての土地評価や境界確定を実施します。

「安全安心なまちづくりと防災・減災日本一」では、令和元年度からの3か年継続事業としている、防災情報伝達設備整備事業は、2年目にあたり、総額4億2,680万円のうち、

3億3,080万円を計上しています。防災無線のデジタル化に加え、スマートフォンとも連携できるようになります。

平成29年度より順次整備を進めてきました、防災貯留型トイレ、いわゆるマンホールトイレの避難所への設置も、最終年度を迎えます。令和2年度の7か所で、市内の小中学校及びたつのこアリーナへの設置が完了します。

交通安全施設整備事業では、従来のガードレールやカーブミラーの設置に加えて、市道の区画線補修を計画的に実施するための予算を増額しました。おおむね10年サイクルで区画線を補修していきます。

また、地域の安全安心のため、交差点への防犯カメラの設置や、住民自治組織等で設置する防犯カメラの設置にかかる補助を継続していきます。

「健康づくりの推進とスポーツ健幸日本一」では、2020年オリンピック東京大会の事前キャンプについては、タイ王国の陸上競技チーム、キューバ共和国及びオセアニア地域の柔道チームが、事前キャンプにやってきます。令和2年度は、いよいよ本番ということで、一流アスリートの技を間近で体感し、様々な国の人々と交流する絶好の機会が到来します。

北海道日本ハムファイターズのイースタンリーグ公式戦は、令和2年度も継続して開催します。令和2年度には、野球教室の開催も予定しています。

また、マラソン大会も、令和3年度の開催に向けて、本格的に動き出します。

つい先日（2月7日に）オープンしました、『まいん「健幸」サポートセンター』については、オープン前から予想以上の事前登録者を得まして、地域住民の健幸の拠点として、順調なスタートを切ったところです。健幸講座の開催などを通じて、高齢者の「健幸」づくりを多方面からサポートしていきます。

また、平成29年12月にスタートした、「タッポくん健幸マイレージ」事業は、登録者が1,500人を超え、日常的なウォーキングを始めとした、市民の「健幸」づくりの土台となっています。

市が集団で実施する健康診査では、これまで希望者に実費で実施していた、眼底検査、貧血検査、心電図を、全ての受診者に実施します。がん検診を含めた自己負担についても、利用し易いように再編を行いました。また、健診のデータを分析して、未受診者への受診勧奨や、糖尿病の重症化予防に活用するなど、健診環境の充実を図っています。

その他、公共施設の長寿命化も、順次、実施してまいります。令和2年度は、龍ヶ崎市駅東駐輪場やひまわり園の塗装や、元気サロン松葉館・松葉小学校保育ルーム、農業公園農業ゾーンの空調機更新などを予算化しています。

民間活力やノウハウを生かし、サービスの向上を図るため、アウトソーシングにも取り組みます。令和2年度では、学童保育ルームの運営や市営住宅の管理運営などをアウトソーシングしています。

特に、利用者の増加が続く学童保育では、支援員の確保及び労務管理等が大きな課題となっていました。民間事業者の人材募集や労務管理のノウハウを生かしながら、子育てと仕事の両立に資する学童保育の安定的な運営を図ります。

また、事務改善の一環として、RPA（ロボティック プロセス オートメーション）運用支援による、定型業務の自動処理化を試行します。事務軽減効果を検証し、今後の本格運用を検討していきます。

なお、これらにより生み出した人的余力は、主要事業等に振り分け、効率的な行政運営をさらに進めていきます。

次に、牛久沼に関連した予算として、今回は埋設物調査費を提案させていただきました。この場所は道の駅整備予定地ですが、埋設物調査に基づき、先行して埋設物を撤去する必要があることから、護岸整備に向けた調整等も踏まえながら、令和2年度は、牛久沼全体の未来を優先して皆さんと考えていく年と位置づけ、仕切りなおす意味も込めて、当初予算には埋設物の調査費のみを計上しました。

現在、牛久沼全体を考えていく中で、茨城県に対して、牛久沼トレイル整備に関する情報共有・協力要請を行っているところであり、龍ヶ崎市域から直接つながる二千間堤の整備についても、牛久沼周辺首長会議の構成市である、取手市、つくばみらい市と整備に向けての協議を進めているところです。

今後も、牛久市、つくば市を含めた周辺市とは、牛久沼トレイルの一体的なビジョン構築はもちろん、様々なコンテンツによる魅力付けや、水質浄化なども含めて、牛久沼の魅力を高める取り組みに力を合わせてまいります。

あわせて、その牛久沼の魅力を活かす民間事業者を誘致するなど、牛久沼の奥深いポテンシャルと可能性を信じる皆さんにもお力をいただき、牛久沼の潜在力を花開かせる取り組みを、一步一步着実に進めていく一年にしたいと考えています。

また、市役所内の組織についても、令和2年度より、担当課の名称を「道の駅・牛久沼プロジェクト課」から「牛久沼プロジェクト課」に仕切り直した上で、牛久沼全体のにぎわいや利活用の推進を更に推進していく姿勢を内外に示してまいります。

以上、駆け足となりましたが、令和2年度予算の概要をご説明しました。

市民一人ひとりにとって真に必要なサービスとは何かを市民の皆さんと共に考え、持続可能な「ふるさと龍ヶ崎」のまちづくりに全力で取り組んでまいります。

ご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。